

新型コロナウイルス（Covid-19）への当院の対応について

- 病院スタッフの手指衛生および診療台や医療器具、入院室、衛生設備などの衛生管理は、日常の診療より流水・石鹼・洗剤での洗浄と70%エタノールやオゾン水、クロルヘキシジン、複合次亜塩素酸製剤、二酸化塩素製剤、逆性せっけん（製品名マスキ、ビロンS、ハイワイル、パコマ、ヒビテン）などによる消毒・殺菌、マイスイフト微細ミスト発生型空気活性システム、トルライトなど目的と状況によって組み合わせて使用することで徹底しております。
 - 特に手指衛生は各患者さんの診療後だけではなく、診察中も医療器具の取り扱いや移動時、処置内容の変更時などにも手指の消毒を徹底しております。犬と猫の感染症について、院内感染と思われる事象は今まで起こっておりません。
 - 現状のCovid-19感染の拡大に伴い、これらの衛生管理をさらに徹底しております。さらにドアノブやカウンター、ボールペン、クリップボード、待合室、トイレなど、人が触れる箇所の定期的な清拭・消毒と診療室・待合室その他の換気の徹底をしております。
 - 今後、さらに感染拡大が持続する場合や外出禁止令の交付、首都圏封鎖などが起こった場合は、公衆衛生上の観点から、飼い主さん並びに動物、獣医師及び獣医療スタッフの感染を防御し、動物の福祉を守るために、以下のように対応する予定です。

これらは、当院だけの対応方法ではなく、行政機関および東京都獣医師会の指導、米国の安全保障省がトランプやロックハウィッチの施行中の米国内動物病院の対応を参考に、当院にて考案したプロトコルです。
- 1、外来診療は現体制を持続できるよう努めますが、診療はかかりつけの患者さんに限らせていただきます。さらに、緊急や急を要する患者さん、重篤な病状の患者さん、継続的な治療が必要な患者さんの診療が主となります。
 - 2、予防接種や避妊手術、緊急性の低い診療や処置はご来院をお断りし、外出禁止令解除後のご来院となることもあります。
 - 3、診療は、獣医師と患者さんが距離を隔てたところで電話やメール、インターネットな

どの情報通信技術を用いて診療を行う **遠隔診療(telemedicine)** が基本となります。この場合、直接診療を行わない場合も多くなり、薬剤の処方や処置の指導のみとなる場合もあります。そのため、診断や治療の精度、治療内容の限定など問題もありますが、その点はご了承いただかなくてはなりません。そのため、遠隔診療の可否については動物の体調や病状、経過によりその都度ご相談させていただき、ご来院が必要と判断される場合は予約診療として対応します。

- 4、直接のご来院は避けていただき、**必ずお電話にてお問い合わせ**ください。まず、問診聴取や来院の必要性の判断、感染リスクの判断などを先に行います。
- 5、**来院される飼い主さんについて、「発熱や呼吸器症状の有無、新型コロナウイルスに感染している人との接触の有無、海外渡航の有無」**を必ず事前に確認させていただきますので、正しくお答えください。あてはまる飼い主さんは、他の方にご来院いただくなどこととなります。
- 6、診療の際には、**全ての患者さんと病院スタッフの接触を減らします**。お電話にて病院に到着されたらご連絡をいただき、再度問診の補足を行います。ご来院された際には、特別な場合を除きご自身の車中または病院屋外でお待ちいただくこととなります。
- 7、大型犬以外は特別な場合を除き、首輪やリード[®]、服ははずしていただき、必ずキャリーケースに入れてご来院ください。キャリーケースを病院玄関前に置いていただき、飼い主さんは離れた場所で待機ください。スタッフがキャリーケースごとお預かりします。診療後は、お預かり時の逆の手順でキャリーケースをお返しいたします。
- 8、院内に持ち込んだキャリーケースは、ただちにアルコールまたはその他の薬品にて消毒し、スタッフもただちに手指洗浄と消毒を行います。診療は、マスクと手袋を装着して行います。
- 9、診療費は、クレジットカード[®]やICカード[®]、スマホ決済アプリなどをご利用ください。

以上を励行することで、**飼い主さんと動物、病院スタッフの感染を回避し、新型コロナウイルス(Covid-19)の感染拡大を防ぐよう**、何卒よろしく願いいたします。